

出張報告書

2023 年 11 月 24 日

所 属	職 名	氏 名
オーラルメディシン・ 病院歯科学講座	講師	酒井 克彦
出張目的	摂食嚥下における咳反射のメカニズムに関する基礎研究と、摂食嚥下 障害の診断・リハビリテーション技術の習得	
出張地	時 期	2022 年 11 月 23 日 出発 2023 年 11 月 22 日 帰着
	ニュージーランド カンタベリー大学 ローズセンター脳卒中回復研究所	

報告事項

2022 年 11 月 23 日より 2023 年 11 月 22 日まで、ニュージーランドのクライストチャーチにあるカンタベリー大学ローズセンター脳卒中回復研究所(University of Canterbury Rose Centre for Stroke Recovery and Research)に長期海外出張をさせていただきましたので、その概要についてご報告します。

ローズセンターは摂食嚥下リハビリテーションを専門とする研究所で、St George's Hospital という私立病院の中にラボが設置されており、摂食嚥下リハビリテーションの世界的な研究者で言語聴覚士である主任教授の Prof. Maggie-Lee Huckabee をはじめ、Senior Lecturer の Dr. Phoebe Macrae、数名のポスドクと 10 名程度の大学院生が在籍していました。教室員の出身地は様々であり、ニュージーランドの他にイギリス、香港、マレーシア、シンガポール、南アフリカ、ロシアなど世界中の言語聴覚士が研究に励んでおりました。また、ローズリハビリテーションクリニックを併設しており、Clinical Director の言語聴覚士が臨床を担当し、集学的摂食嚥下リハビリテーションを実践しており、ニュージーランド中から難治性摂食嚥下障害の患者が訪れていました。

Huckabee 教授は摂食嚥下障害の病態生理を探究するとともに、研究から得た知見を臨床現場に還元し、患者の臨床転機改善、生活の質の向上、地域社会に貢献することを目標としておりました。そのために、ラボに併設して Swallowing Technologies という会社を設立しており、エンジニアと連携し、臨床応用可能なデバイスの開発にも取り組んでおりました。Huckabee 教授は特に摂食嚥下の中枢制御と大脳皮質の可塑性に着目しており、摂食嚥下リハビリテーションにおけるスキルトレーニングの基礎を築き、臨床応用に向けた研究を行っておりました。Macrae 先生は摂食嚥下における感覚-運動システムに着目しており、特にクエン酸に対する咳の反応、呼吸と嚥下の協調についての研究を行っておりました。安全な摂食嚥下には感覚入力およびそれに対する防御反射が必須ですが、摂食嚥下障害患者に対する口腔咽頭感覚の評価プロトコールは確立していません。私は Macrae 先生の指導の下、摂食嚥下障害患者の口腔咽頭感覚評価法の確立を目的に、感覚検査の信頼性を検証する研究を行わせていただきました。この研究成果については今後学会発表および論文投稿を目指しております。この他に、Huckabee 教授が開発した咀嚼嚥下機能検査アプリ(ToMaSSApp)の日本語版開発に携わり、本邦における信頼性および妥当性検証に向けた研究の準備をしてまいりました。

最後にこのような機会の許可をくださった井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、新谷誠康国際交流部長に感謝申し上げます。また、松浦信幸オーラルメディシン・病院歯科学講座教授、野村武史口腔腫瘍学講座教授、両講座の医局員、市川総合病院歯科・口腔外科のスタッフの方々、関わっていただいたすべての皆様に、重ねて御礼を申し上げます。今回の長期海外出張の経験を少しでも本学の発展に還元させていただきたく所存です。